We Rock pg 1

We Rock

●ウイ・ロック ●by Ronnie James Dio

★この曲のポイント

■Guitar

リズム・パートでは、2本のギターが微妙に絡んで1つのリフを作っていて、スピード感を作り出している。

■Bass

16ビートのノリを持ったスピード感のあるベース・ラインが続く。途中でノリを失わないように最後まで気合いを入れて弾こう。

■Drums

スネアのロールによるドラミングから入る曲なので、1点打ち、2点打ち等の基礎テクニックがしっかりと身についてないと叩けない曲といえる。間違えたからといって、リズムを崩さないように気をつけよう。

❶(Gt.)：このリフは、2本のギターが絡み合うことによって作られている。1本のギターで弾くときは休符の所でカラピックを入れるようにするとよいだろう。

❷(Dr.)：スネアのロールによるドラミングだが、アクセントをハッキリつけ、ドライブ感を充分出そう。

❸(Ba.)：ギターのフレーズと微妙に絡むベース・フレーズだ。ドラムのアクセントとズレないように、しっかり合わせよう。

We Rock pg 2

❶(Ba.)：ここは、バスドラとうまく絡んでいるのでバスドラの音をよく聴いてプレイするように心がけよう。

❺(Dr.)：バスドラが、16ビートを感じさせる重たいドラミングをしている。ハイハットは気持ち開け気味にして、荒々しさを出そう。

❻(Gt.)：このように白玉(全音符や二分音符)が続くバッキングでは、リズムが狂いやすいので気をつけよう。

B
G
Vo.
sail along
Sing song
Carry on
Oh We
Gt.
Ba.
Dr.
Am
Rock
We
Rock
We
Rock
(We)
1.
F
C
Bm

2.
F
G
Am
Bm
C
D
C
Am
Vo.
Rock
We
Rock
We
Gt.
Ba.
Dr.
Rock
We
Rock
We
F
C(onE)
Dm7
C(onE)
F
C(onE)
F
G
Am
Rock
We
Rock

We Rock pg 6

❼(Gt.)：ハーモナイズ・チョーキングによるフレーズが続くので、しっかりと押さえて、音程に気をつけよう。

❽(Gt.)：強いピッキングで、ピッキング・ハーモニクス気味に弾く。

●(Gt.)：チョーキングの連技だが、速いからといっていいかげんに弾かないように。

●(Dr.)：バスドラとスネアのコンビネーションに注意しよう。

Am
Vo.
Rock
We
Rock
We
Gt.
Ba.
Dr.
Vo.
Rock
We
F
G
Am
Bm
C
D
Rock
We
Gt.
Ba.
Dr.
Am
Vo.
Rock
We
F
Rock
We
Gt.
Ba.
Dr.

Am
F
Vo.
Rock
We
Rock
Gt.
Ba.
Dr.
G
Ride
out
Stand
and
shout
Car - ry
on
Sail
along
Sing
song
Car - ry
on
Oh
We
cho.

H
Am
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
Rock
We
Rock
Still — are We
Rock
We
Rock
But We
Rock
We
Rock
We
cho.
p.
h.p.
h.
8va
g.
Fade Out

Breathless

●ブレスレス　●by Ronnie James Dio & Vivian Campbell

★この曲のポイント

■Guitar
ハーモナイズ・チョーキングによるフレーズが多く出てくる曲だ。メインのギター・リフでも使われているので体で覚えてしまおう。

■Bass
シンコペーションを多用したベース・ラインなので、ドラムとのコンビネーションに気をつけ、突っこみすぎないように注意しよう。

■Drums
ミディアム・テンポの8ビート・ナンバーだ。シンプルなドラミングの曲だが、スネアとバスドラ、ハイハットだけでもしっかりとしたノリを出すように心がけよう。

●(Gt.)：このギター・リフは、2本のギターの絡みによって作られているが、ここでは1本のギターで弾けるようにアレンジしてある。

●(Dr.)：スネアとバスドラのコンビネーションに気をつけよう。

●(Ba.)：コードが変わってもベースがずっとＥ音を弾き続ける、いわゆるペダル・ポイントというアレンジになっている。シンコペーションに注意して弾くこと。

●(Ba.)：ここでは、ペダル・ポイントとは逆にコードはそのままで、ベース音だけ下降していくというアレンジになっている。

❺(Gt.)：ギター・ソロの導入部は、ベースやドラムと同じように半拍クッて入っているので、遅れないようにバッチリキメよう。

❻(Gt.)：ロック・ギターではよく使われるオーソドックスなフレーズのひとつだ。覚えておこう。

❼(Gt.)：ここの6連符は、右手で弦をミュートしてドライブ感を出すようにしよう。

❽(Gt.)：ライト・ハンド奏法による6連符のフレーズだ。リズムにのって弾くようにしよう。

❾(Gt.)：開放弦を利用した6連フレーズだ。プリングを使ってスピーディーに弾きこなそう。

B
Em
D
Vo.
Gt.
Harm.
Arm.
cho.
Ba.
Dr.
Em
D
Yeah
C
Coda
Em
D
D.S.
Breath - less yeah
We are
Breath - less
Ah
roll - ing on nights

D
C
Em
D
Vo.
Then you Breath - less
Yeah you're Breath - less Ah
Gt.
cho.
Ba.
Dr.
D
Em
D
real - ly you burn
Breath - less
You real - ly oh yarn
Em
D
C
Breath - less The trou - bles you've grown you're Breath - less real - ly No no no
Fade Out

Evil Eyes

●イーヴル・アイズ　●by Ronnie James Dio

★この曲のポイント

■Guitar
6弦の開放(E音)を多用したリフが多く出てくる曲だ。右手のミュートとピッキングのバランスによって、歯切れのよいビートを刻もう。

■Bass
イントロとエンディングで少々かわったユニゾン・フレーズが出てくるが、それ以外はノリノリの8ビート・ロックだ。シンコペーションに注意して、思いっきりドライブしよう。

■Drums
アップ・テンポのシンプルな8ビートの曲なので、なるべく無駄なことをせずにノリに徹っしよう。

❶(Gt.Ba.Dr.)：ギター、ベース、ドラムのユニゾン・フレーズで始まるイントロだ。譜割がちょっと変わっているので息を合わせるようにしよう。

❷(Gt.)：6弦の開放(E音)を弾くときは、右手でブリッジの近くをミュートして弾こう。

❸(Dr.)：ハイハットをややオープン気味にして叩くと感じがでるだろう。

E
D(onE)
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
cho. cho.
D
E
A
Hide in the night - time
Hide in the mid - night
It's the call of the city
Turn up the light
The way that looks
you'll see them any - way
pret - ty to the pure at heart
Sail in - to nev -
It's pla - ces of plea -

E
C
D.S. time to Φ
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
er
Just fol-low where-ev-er you can go
And
sure
They prom-ise you trea-sure if you fly
And
C
1. E
take you to the great things you don't know
No no
then there goes the soul of you and die
D (onE)
E
2. E
G
oh do

B
G
B
E
G
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
you ev - er think a - bout the way I caught the rain - bow I'll
be there when fire makes you dance
I'm gon - na
D
A
give you the look That opens up the skies
I've got Evil Eyes

❹(Ba.)：コードが変わっても、ベースがE音を弾き続ける(ペダル・ポイント)というアレンジになっている。

❺(Gt.)：開放弦を使った6連の速弾きフレーズだ。テンポが速いので、のりおくれないように。また、ここからギターの音色がちょっと変わって、こもったような音になるが、この音はイコライザーを使って中域をブーストしてやるとよいだろう。

❻(Gt.)：このようなフレーズは、リズミックに歯切れよく弾くことが大切だ。

❼(Gt.)：ここも開放弦を使ったフレーズだが、ここでは弦はかわらずにフレットだけが上昇していく。2拍9連というリズムで弾いている。慣れないとリズム・アウトしてしまうのでよく練習しよう。

E
E
C(onE)
D(onE)
Vo.
Yes Evil Eyes
Ooh
those eyes
Gt.
Arming Down
Arming Down
Ba.
Dr.
D.S.
Coda
C
F
Evil
Eyes
Evil
Eyes
Evil
Eyes
Evil
Eyes
Evil
Eyes

❽(Dr.)：ヴィニー・アピスが得意とするフレーズだ。バスドラとスネアのコンビネーションを、きれいにキメよう。

E
C(onE)
D(onE)
E
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
- er
Then fol - low for - ev - er
Go where Evil Eyes
Evil
Evil
Evil
Evil
Evil
Evil
Evil Eyes
4.

E
C
D
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
N.C.
E
(onE)
D
A
cho.
8va
g.
rit.
(8va)
(Fill)

Mystery

●ミステリー ●*by Ronnie James Dio & Jimmy Bain*

★この曲のポイント

■Guitar

2本のギターが絡むことによってサウンドが作られているので、できれば2人ギターがほしいところだ。どちらかというと地味な曲なので、押さえたプレイを心がけよう。

■Bass

特に難しいところはないが、イントロの部分はハーモニーが凝っていて、ベースの音が重要な役割を持っている。

■Drums

しまったスネアと重たいバスドラ、それにノリのよさがあればもう何も必要はない。楽しくプレイしよう。

❶(Gt.)：低音部と高音部に分かれた2本のギターによって弾かれている。

❷(Ba.)：ここは分数コードが使われていて、ベースとギターが違う音を押さえることによって和音が作られる。

❸(Dr.)：このオカズは、両手で同時に叩く(フラム)ことによって音を出している。

❹(Kb.)：シンセサイザーによる中近東風なメロディー。ここだけFのコードがマイナーになっている点が、不思議な感じを出している。

❺(Gt.)：１度と５度のコードによるバッキング。アクセントに注意し、ドライブ感を出して弾くようにしよう。

Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
B♭ Dm C B♭ Dm
You know when there's thun - der There should be rain But it don't al - ways fol - low the rule
Just imag - ine will you try I can see that you open - ed your mind
Dm G A C
No And is the white man al - ways right No he can play the fool
still the light - ning can dis ap - pear But they al - ways shine
C F C B♭ F F(onA) B♭
B
It's al - ways a Mys - tery Not what it seems to be

Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
It's al - ways a Mys - tery Just like you and me
Al - ways a Mys - tery
Al - ways a Mys - te - ry
cho.
h. p.
p.

❻(Gt.)：ロックでは珍しいオクターヴ奏法によるフレージングだ。左手で弾かない弦をミュートしてダウン・ピッキングで弾こう。

❼(Gt.)：これはトレモロ奏法という弾き方で、右手ですばやくオルタネート・ピッキングすることによって音を出す。

F F(onA) B♭ F C(onE) Dm C B♭
Vo.
to see Always a Mystery Just like you and me
Gt.
Ba.
Dr.
C F C B♭ F F(onA) B♭
Always a Mystery Always a Mystery
F C B♭ B♭ C
Not what you want to see Always a Mistery cho. Always a Mystery
Repeat & FadeOut

Stand Up And Shout

●スタンド・アップ・アンド・シャウト ●by Ronnie James Dio & Jimmy Bain

★この曲のポイント

■Guitar

この曲で一番のポイントは、ミュート・ブラッシングを使った、テーマのバッキングに代表されるヘヴィなドライブ・サウンドだ。速いテンポとの組み合わせは充分にドライブして、スリルのあるサウンドを作り出している。また、ソロ部分ではヘヴィなギターのトーンや超人的な速弾きで聴く者をノック・アウトしてくれる。

サウンド・メイキングは、これぞヘヴィ・メタルというようなディストーション・サウンドで、腰があり、よく伸びるギター・サウンドだ。

■Bass

華やかなギターに比べると、やや地味なベースだが、ツボを押さえたそのプレイはしっかりとギターをサポートしている。また、リズム面でもドラムとのコンビネーションで、ドライブしながら重厚なリズムを作り出している。

■Drums

基本的にはベーシックな8ビートのドラム・プレイだが、ベースとともにヘヴィなリズムを作り出しながら、すばやいフィルをおり混ぜてスピード感あふれるサウンドを作っている。ややハイ・ピッチ気味にチューニングされたスネアも特徴的だ。

❶(Gt.)：この部分はドライブ感を出すために、5弦のA音をミュート気味に弾くとよいだろう。右手のひらをブリッジ付近に置いて弦に軽く触れればよいわけだが、テンポが速いのでピッキングのモタリ、走りに充分注意しよう。

❷(Ba.)：ドラムとユニゾンのブレイクだ。残響音が残らないように、うまく処理しよう。右手のピッキングは強く、そして歯切れよく。

❸(Dr.)：ベースと同じリズムになっているので、ベースとのタイミングを合わせることは勿論だが、バスドラとシンバルのコンビネーションも確実に。なお、1、2、3発目のシンバルは、叩いた後すぐに左手でミュートしよう。

❹(Dr.)：テンポが速いので、簡単なフレーズでもリズムが乱れないように気をつけよう。

❺(Ba.)：8ビートのベース・パターンだ。テクニック的には難しくはないが、ピッキングのタイミングなどを工夫してドライブ感を出そう。

❻(Dr.)：スネアとバスドラのコンビネーション・フレーズ。タイミングに注意してプレイしたい。特にバスドラの細かいフレーズはしっかりと。

❼(Ba.)：オーソドックスな8ビートのパターンだ。2、4小節目のシンコペーションがポイントになっているので、確実にプレイしよう。

❽(Dr.)：テーマ部分のドラムも基本的な8ビートのパターンになっているが、テンポが速いのでリズムが突っ込みやすいから注意しよう。2、4小節目のバスドラのシンコペーションを強調してドライブ感を出そう。

❾(Ba.)：ここからⒸの部分にかけて、シンコペーションの連続になっているので、リズムに注意しよう。

❿(Dr.)：Ⓒの部分はバスドラのタイミングがポイントになっている。シンバルのシンコペーションも確実にプレイしよう。また、スネアのパターンも毎回違うのでしっかりチェックしよう。

⓫(Gt.)：４弦のＧ音は、ピッキング・ハーモニクスでプレイされている。ピックの先の方を持って、弦に指先がちょっと触れるような感じで強くピッキングするとでる音だ。

●(Dr.)：普通の4連だが、テンポが遅いのでリズムに気をつけてツブがそろうように叩こう。

●(Gt.)：ソロ前のアプローチ・フレーズだ。左手の人差し指と小指を使ったオクターヴ・パターンになっている。ポジションを移動するタイミングに注意しよう。

●(Gt.)：この部分でも3/5をチョーキングする時に、ピッキング・ハーモニクスを出している。チョーキングやチョーキング+プリングの部分もスムーズに。

●(Gt.)：4連などの細かいフレーズが続いている部分だ。2弦のハイ・ポジションでのプリングは、確実に弦をハジくようにしよう。なお、この部分は16分音符の5連フレーズになっているので、ズレ込みに注意してプレイしよう。

●(Gt.)：ソロの後半は、4度のハーモニーで音を伸ばして変化をつけている。グリッサンドの部分は後の方の音が切れないように確実に押さえよう。

●(Ba.)：2小節単位での変則的なベース・パターンになっている。音を切る部分と伸ばす部分のメリハリをつけて弾くように注意しよう。

●(Ba.)：さりげない上昇フレーズだが、非常に効果的だ。4拍ともシンコペーションになっているので、次の部分の頭がズレないように注意しよう。

●(Gt.)：この部分はギター以外はブレイクになっているので、テンポには充分気をつけよう。イントロと同じように5弦を軽くミュートしてドライブ感を出そう。

●(Dr.)：タムとスネアのフィルイン。テンポが速いので、スムーズに叩くには練習が必要だ。

●(Gt.)：エンディングのギター・ソロは長く伸ばしたヴィブラートの音から始まる。大きくゆったりとしたヴィブラートをかけよう。

●(Gt.)：前半はピッキング・ハーモニクス＋チョーキングを利用した一拍半フレーズが続く。この部分のチョーキングは、確実に音程を上げるのではなくチョーク・アップする感じで弾くとよいだろう。後半もピッキング・ハーモニクスを利用した8分音符の5連フレーズが続く。この部分も強力なピッキングが必要だ。

Am7
A♭m7
Am7
D
Vo.
Gt.
Ba.
Dr.
cho.
vib.
cho.+p.
p.
4.

●(Gt.)：最後の部分はフリー・タイムになっているので、フレーズごとにまとまってはいるが、音符の長さは気にしないで弾こう。

●(Dr.)：エンディング部分はフリー・タイムなので、フレーズよりもバンド全体のリズムを合わせるように練習するとよいだろう。

Don't Talk To Strangers

●ドント・トーク・トゥ・ストレンジャー　●by Ronnie James Dio

★この曲のポイント

■Guitar

何といってもこの曲のポイントは、アコースティック・ギターやクリーンなトーンのギター・サウンドを使っていることだ。しかし、それに対比するようにヘヴィなサウンドも存分に聴くことができる。また、実際にはボーカルのバックの部分などには、3本ぐらいのギターがダビングされているようだ。

ソロ・ギターはハンマリングやプリングなどをうまく使って、実にスピーディーなものに仕上げている。

■Bass

この曲も派手なことは一切せずに、シンプルなパターンのベースを弾き続けている。おそらくピックを使用していると思われるが、16分のパターンでも正確なリズムが刻まれている。また、スローな部分では、非常にタメの効いたヘヴィなベースも聴かせてくれている。

■Drums

シンプルな8ビートのドラミング・パターンに、変化に富んだフィルインをおり混ぜて独特のリズムを作り出している。すばやいスネアやタムのフィルは、彼ならではのサウンド・カラーだ。

●(Gt.)：アコースティック・ギターによるきれいなアルペジオだ。2弦のC音がいつも鳴っているのがサウンド上のポイントになっている。ツブをそろえて弾こう。

❷(Gt.)：アコースティック・ギターのアルペジオにエレクトリック・ギターのアルペジオを重ねてある。アコースティック・ギターの方が全拍とも16分音符で弾ききってしまっているのに対して、エレクトリック・ギターの方はアクセントをつける感じで弾いている。サウンドは、クリアーなトーンでコーラスなどをかけると一層効果的だ。

❸(Dr.)：ドラムのパターンは一般的な8ビートだがテンポが遅いので突っ込みやモタリに気をつけてプレイしよう。

❹(Ba.)：ベースもテンポが遅いので、モタリや突っ込みに注意しよう。また、スラーでつながっている部分は確実に音を伸ばそう。

❺(Gt.)：ここからテンポが速くなる。カッティングもブラッシングを多用してドライブ感を出している。左手を浮かすタイミングに注意しよう。

❻(Ba.)：このブレイクの部分では、アタックの強いサウンドが得られるように力強くピッキングしよう。音を出していない時のミュートも忘れずに。

❼(Gt.)：Ⓖの部分ではハイ・ポジションのカッティング・プレイが行われている。サウンド的には、5度の音が半音ずつ下がってきている。

❽(Ba.)：2拍目だけ ♫ というリズムになっているのでアクセントが変わっている。テンポが速いので正確なピッキングが必要だ。

❾(Dr.)：レコードをよく聴いて、このヘヴィなノリをつかんでほしい。後半のバスドラは、より細かいパターンになっている。

●(Gt.)：この2小節のコード・バッキングは、白玉(全音符)になっているので最後までしっかり音を伸ばそう。

●(Gt.)：この部分はコードからなるリフのバッキング・パターンになっている。シンコペーションのアクセントをハッキリと弾こう。3、4小節は音をよく伸ばそう。

●(Ba.)：2、4小節目のシンコペーションは、ギターとタイミングを合わせるように注意しよう。1、3小節目はそれぞれの音のツブをそろえて弾こう。

●(Ba.)：ギター・ソロのバッキングは４小節のくり返しになっている。♫♬のリズム・パターンがドライブ感を出している。各拍の頭にしっかりアクセントを置いてプレイしよう。

●(Dr.)：Ⓕのドラムは４小節で１パターンになっている。基本的にはシンプルな８ビート・パターンだが、４小節ごとに入るスネアのフィルがスピード感を盛り上げている。テンポが速いので、６連などを正確に叩くには練習が必要だろう。

●(Gt.)：ポジション的には難しくはないが、シンコペーションのタイミングに注意しよう。グリッサンドが効果的だ。

●(Gt.)：６連の速いパッセージ。音使いやポジション的にはＤマイナーのスケールそのままなので、それほど難しくはないだろう。しかしテンポが速いので、弾きこなすには相当のテクニックが必要だ。なめらかに弾くことを心がけよう。

●(Gt.)：これも6連の速いフレーズだ。1、2小節目はハンマリング＋プリングを使って流れるような感じを出している。ポジションはＤマイナーのスケールだ。3、4小節目はハンマリング＋プリングを使わずに全部ピッキングしている。

●(Gt.)：６連＋８連の速いパッセージ。プリングやハンマリングを効果的に使っている。ポジション的には、これも５フレットに人差し指を置いたＤマイナーのスケールで対応できるので難しくはないだろう。しかしなにしろ速いので、よく練習しよう。

●(Gt.)：ﾂや空ピッキングを有効に使ったフレーズだ。後半ではプリングを使ってトリッキーな感じを出している。左手のすばやい動きが必要だ。

●(Gt.)：ここからまた、テンポ・ダウンする。スローなテンポの場合は、ヴィブラートのかけ方がポイントになってくる。また、グリッサンドなどの音の処理の仕方にも注意しよう。

㉑(Gt.)：薄目のディストーションがかかったギターでのアルペジオだ。音は切らずに伸ばしたままだ。

㉒(Dr.)：Ⓗの前半の8小節は、スネアのフレーズを中心とした変則的なパターンのドラミングだ。後半はバスドラのパターンに注意。

●(Ba.)：♪♫のパターンは歯切れよいピッキングが心要だ。最後まで力強くピッキングしよう。特にウラの16分音符はモタらないように注意

Straight Through The Heart

●ストレイト・スルー・ザ・ハート　●by Ronnie James Dio & Jimmy Bain

★この曲のポイント

■Guitar

コードからなるリフを主体とした非常にヘヴィなバッキング・パターンをプレイしている。しかし、ただ単に弾きまくるだけでなく、音を伸ばしたり切ったりといったメリハリのあるギター・サウンドが特徴だ。ソロ・パートもツボを押さえたミュート奏法あり、チョーキングあり、ツイン・ギターありとカラフルな構成になっている。また、派手ではないが、アームを使ったプレイもいくつか聴くことができる。

■Bass

基本的にギターとユニゾンのバッキング・パターンでプレイしている。また、ギター・ソロのバッキングなどでは歯切れのよい16分のベース・パターンも聴かせてくれる。この曲もドラムとのコンビネーション・プレイはバッチリきまっている。

■Drums

いきなり6連のタム・タムのフィルで始まるこの曲も、シンプルな8ビートのドラミングがメインになっている。また、この曲でも他の曲同様に、変化に富んだフィルを数多く聴くことができる。テンポがスローにもかかわらず、強力なフィルがどんどん飛び出してくる。そしてギター・ソロなどのバックでは、ベースのパターンに合わせた16分のハイハット・プレイなども聴くことができる。

❶(Dr.)：6連のタム・タムのフィル。流れるようにプレイするには、スムーズなスティック・ワークが必要だ。

❷(Gt.)：バッキング・パターンは4小節で1パターンになっている。1、3小節目はヘヴィに、そして2小節目はブラッシングやピッキング・ハーモニクスに注意して弾こう。

❸(Dr.)：ドラムも4小節で1パターンになっている。オーソドックスなパターンだが、2小節目の3、4拍目のバスドラのアクセントはタイミングに注意しよう。

❹(Ba.)：ベースのパターンはギターとユニゾンになっている。２小節目のフレーズは左手のすばやいフィンガリングが必要だ。また、４分音符は充分音を伸ばして重厚な感じを出そう。

❺(Ba.)：ベースも基本的にAの部分と同じだが、４分が８分になってい てるで、アタックをしっかり出し、歯切れよく弾こう。

❻(Dr.)：シンプルだがヘヴィでタイトなドラミングだ。タメを効かせて力強く叩くことがポイントだ。

❼(Gt.)：このブリッジの部分は全部のパターンになっている。メリハリをつけるために、ブラッシングはおおげさにカッティングしよう。

❽(Ba.)：ギターと同じパターンになっているが、1小節目は𝄾が入って音が切れているので歯切れよく2小節目はそのまま力強くグイグイと弾こう。

❾(Dr.)：2小節目のタムまわしは、非常に速いスピードで行われている。普段からスピーディーかつスムーズなスティックさばきを練習しておこう。

●(Dr.)：1、2拍は16分のシンコペーションになっているので走ったりモタったりしないように、しっかりリズム・キープしよう。

●(Gt.)：4小節で1パターンのコード・バッキング。しっかりピッキングして伸ばすところは目いっぱい音を伸ばそう。

●(Ba.)：ギターのコードは変化してもベース・ラインはB音のままだ。"ディオ"ではよく使うペダル・ポイントだ。

●(Dr.)：ベーシックなパターンのプレイに加えて、ハイハットを16分で刻むことにより、ベースとのコンビネーションでサウンドにメリハリをつけている。

●(Gt.)：1、2小節目の2拍目のブラッシングは、ポジションはあまり気にしなくてよいだろう。弦をミュートさせてワイルドさを出そう。

●(Gt.)：この部分はミュート気味に弾くとよいだろう。右手をブリッジ付近に軽くのせてピッキングしよう。

●(Gt.)：オーバー・ダビングによるツイン・ギターのハーモニー。２人のギタリストでプレイする場合は、３連やチョーキング・ヴィブラートなどのタイミングを合わせるようによく練習しよう。

●(Gt.)：Ⓕの前半はボーカルのオブリガードでソロを弾いている。フレーズ的には難しいところはないので、チョーキングやヴィブラートのフィーリングをしっかりつかもう。8、9小節はアームによるスロー・ダウン。

●(Dr.)：スネアのフィル。フレーズが細かくテンポが速いので、ムラやミスのないようにしよう。

⑲(Gt.)：このチョーキングは、譜面では非常に表しにくい。右手で3連のピッキングをしながら、左手はどんどんチョーキング・アップして行く。

⑳(Gt.)：最後の部分は、チョーキング・ヴィブラートがワイルドな感じを出している。後半はオーバー・ダビングによるツイン・ギターだ。

㉑(Dr.)：エンディングのドラムは変則的なパターンになっているので、よく練習しよう。